

【議事概要】

宇宙開発に関する国家基幹技術の推進の在り方に関する 見解の策定について

文科省の池原光洋参事官（宇宙航空政策担当）が、資料 17-1-1（表題と同じ〈見解をまとめる作業の提案〉）を説明した。続いて文科省の奈良人司宇宙開発利用課長が資料 17-1-2（宇宙システム）を説明した。更に文科省の千原由幸宇宙利用推進室長が資料 17-1-3（衛星観測監視システム）を説明した。説明の後、井口委員長が第一の議題の決済を呼びかけた。

井口：17-1-1 は採決が必要なので、皆様如何でしょうか。

松尾：結構なことだと思います。

井口：それでは決定ということで。

（以下、衛星と宇宙システムの議論に入る。）

井口：衛星観測監視システムの「見解」は地球観測推進部会へ送達するとの説明であったが、どなたに渡すのか。

千原：（部会の構成・上下関係を説明し、途中で遮られる。）

井口：人を聞いているのです。短い時間でまとめるので、話が伝えやすい人か否かを知りたい。

千原：〇〇は井田久雄 文科省大臣官房審議官で、〇〇は〇〇先生です。

井口：両方ともよく知っている方です。組織の役割の人と会話するのではなく、結局は人と会話²するのでしょうか。

² 鵜呑みに賛成はしかねる。役割にある人と会話すると考える。

「…位置付けについて」は平成 17 年の特別部会で、青江委員のご努力によって作成され、外に出て行っている³ものである。

青江：特別部会で、実施主体を定めることを要求したが、まだ定まっていないのか。

千原：〇〇、〇〇衛星の開発はそれぞれ担当を定め、進めているが、〇〇⁴はまだ選出が終わっていない。

井口：HTV は平成 8 年に計画が承認された云々と報告したが、自分の記憶と違うように思うが。

奈良：宇宙ステーション補給整備について、計画評価部会で審議いただいた。このときに平成 13 年打上げと決まっている。何分にも大分昔のことなので。

井口：宇宙開発委員にはなっていないが、部会に参加していたころだと思う。記憶と異なるので、再度調べてもらいたい。

井口：（「見解の観点及び項目」の）「計画の妥当性」に「資金投入の妥当性」という項目がある。当時の委員会では予算の妥当性については評価していなかった。予算について全く報告を受けていなかった訳ではないが、十分評価したとはいえない。

奈良：そこがスタートライン⁵になっていますということで認識

³ 投げかけたまま回答が無いので、投げかけが有効であると言いたいようであった。

⁴ 地球観測データを解析する技術の開発の実施主体が決まっていないように聞こえた。

⁵ HTV についての回答。妥当性の評価は苦しいと感じているのか。

していただければ。…

森尾：国家基幹技術について長く審議してきたので、知っている方は分かっているのであろうが、最近入ってきたものにとって良く分からないので、過去どうであったのか概要で良いので教えてもらいたい。

井口：資料 17-1-2 の 4 ページの図で、左側の部分⁶は（対象として）入っていないという認識で良いのか。

奈良：（独法評価委員会のことを説明）⁷（内容は省略）

松尾：資料 17-1-2 の 2 ページ⁸と、資料 17-1-3 の 4 ページ⁹における宇宙開発委員会の位置付けに矛盾は無いのか。

千原：資料 17-1-3 の 5 ページ¹⁰が対応するもので、

青江：右上の余白に「宇宙開発委員会」を、左上の余白に「海

洋開発分科会」を…（と、具体的な変更指示¹¹。）

松尾：まあ、実際に作業に入ってしまうと、どちらであっても同じことですから。

⁶ 独立行政法人の業務実績評価を行うもの。毎年 1 回行われるもので、プロジェクト計画の評価を行うものではない。質問は的確である。ただ、このような不要な記事の入った資料を作成したのはどうしてなのか理解できない。

⁷ 説明をすることも不要ではないか。「関係ないので無視してください」とは言いにくいであろうが。

⁸ 「宇宙輸送システム」の推進体制。宇宙開発委員会が最上位にいて、その下に文部科学省研究開発局、JAXA と続く。

⁹ 「海洋地球探査システム」の推進体制。地球観測推進部会が最上位にいて、その下に推進本部があり、JAMSTEC と JAXA に続く。JAMSTEC の下に「海洋開発分科会」が記載され、JAXA の下に「宇宙開発委員会」が記載されている。

¹⁰ 「海洋地球観測探査システム」の推進体制。「宇宙輸送システム」と同じ記述になっている。上記の中で説明したページは総務省と共同で作り、このページは「宇宙に関する分」を抜き出して、JAXA か文科省が作ったものであろう。宇宙開発委員会を「アドバイザー」と軽視しているのだから良いが。

¹¹ この指示は要らないでしょう。左に述べたように、文科省が宇宙開発委員会を心の中でどのように位置づけているのかが肝要である。どのように直すのかはさほど重要ではなく。このような資料を作ったことに対する危機意識が重要であろう。松尾委員の発言は、軽視されるという危機を感じて嗜めたものと、小職は勝手に思っている。